

第4回岡山県後発医薬品の安心使用のための協議会の開催について

講演日時:2022年1月20日(木)14:00～16:00

開催形式:WEB開催

テーマ:後発医薬品に関する品質及び安定供給の確保

GE薬協推薦委員:田中 俊幸(日本ジェネリック製薬協会 政策委員会政策実務委員長)

概要:岡山県後発医薬品の安心使用のための協議会において当協会の取組みについて説明しました。

(説明実施後にいただいたご意見)

- 現在、臨床現場ではどこも薬が入ってこない。また、どのような状況になっているのか具体的な情報も入ってこない。代替品も含めて欠品の情報が分からなくて、現場は本当に困っている。
- 患者さんを何とか説得してジェネリック医薬品に切り替えてきた流れがある。どの薬がいつ無くなるか分からない状況で本当に診察が続けられるのかという心境。
- このような状況で、国は引き続き推進するようだが、やって行けるのか？
- ジェネリック医薬品が無い場合、先発品に戻さなければいけないことがある。その際、患者さんの負担が上がる(薬価が上がる)というのは困る。一時的な措置としてでも、先発品の薬価を下げることは出来ないのか。また卸で振り分けて貰いたい。
- 患者としては、病院で言われた薬をもらって帰るだけ。本日の講演で初めて、薬の状況を知ったが、日頃、こうした背景を知ることがほとんどない。先生に言われたことを信じるのみ。関係者の皆様のご苦勞をお聞きし、仕組みとして上手く回ることを願う。
- 流通の方はどうなっているのか聞きたい。卸によって、こちらの卸は製品が入る、こちらの卸は入らないというバラつきがある。メーカーにも責任があると思うが、もう少し流通をシンプルに出来ないのか？ブラックボックスのようになっている。(卸によって、無いという品目が実は他であるということもあった)
- どうしてもメーカーに矛先が向きがちであるが、県の方に聞きたい。メーカーに対して頑張ってもらってジェネリック医薬品を作れと言う一方で、後ろから支えることをしていないのでは。行政として対応が遅れていると思う。